



津山の人・物・技術
など、明日誰かに自慢
したくなる津山のいい
ところを紹介します

ええとこ
いっぱい

津山

17
つやまじまん

自慢

美作千代駅の管理で功労者表彰 領家駅前自治会(領家)

平成13年に建物を所有する市(当時の久米町)の委託を受ける前から、駅舎の保守管理を半世紀以上続け、開業当時の姿で保存。活動が評価され、令和3年、産業遺産学会の産業遺産保存功労者表彰を受けました。会長の大寺保さん(写真後列左)に駅舎への地域の思いを聞きました。

地域にとって大切な場所

昔は、ホームに2本の線路と貨物列車の引き込み線が1本あり、運んできた荷物は地域に、地域から集まってきた木材や米は地域外に運ばれていくなど、駅が流通の拠点でした。

この辺りでよく採れていたマツタケを駅から送ったり、マツタケ狩りで訪れた人をすき焼きでもてなしたりしていたこともあり、子どもたちが地域外に出掛ける校外活動は、駅での切符の買い方の勉強から始まりました。通学や旅行の交通手段、祭りの御旅所、子どもたちの遊び場など、わたしたちの生活の拠り所でもありました。駅は、地域のいろいろな思いが出が詰まる大切な場所です。

自慢の駅舎

1番の自慢は、駅舎の外観です。窓枠の修繕などは行いましたが、その他は建設当時のまま維持しています。撮影や絵を描きに来る人もたくさんいます。

地域の思い入れは強く、駅舎の前に四角い郵便ポストを設置することになったとき「現代的でせつかくの駅舎の雰囲気を壊すのでは」という意見が出ました。そこで、当時の久米郵便局長にお願いして、

倉敷市玉島にあった円筒状の古い形のポストを移設することになりました。

駅舎には昔の写真も展示しているので、変わらない駅舎と、時代の流れとともに変化した駅周辺の様子を見ることが出来ます。

みんなで守っていききたい

現在は、自治会に所属する7軒の有志が交代で管理しています。高齢化が進み、参加できる人が減ってきているのが悩みです。

これまでの活動が認められた表彰は励みになります。管理の仕方をみんなで模索しながら、地域の歴史を語る大切な建物を守っていきたいです。そのためには鉄道は無くならず残って欲しいです。

姫新線美作千代駅本屋



大正12年(1923)に設置。当時の鉄道省が定めた地方の小さな駅舎の建築スタイルを残す貴重な建造物として、令和3年に産業遺産学会(東京)の推薦産業遺産の認定を受けた。

※撮影時のみマスクを外しました



広報クイズの応募の際に記入してもらった感想やご意見。自分が担当した記事への感想があると「もっとこうしてみよう!」と、ますますやる気が湧いてきます。クイズへの応募は、先月号から市ホームページの専用フォームでもできるようにしました。皆さんからのたくさんの方の応募をお待ちしています! (※)

津山自慢で話を聞いた大寺さんの家は駅前の材木店です。材木の保管倉庫の場所に、貨物列車の引き込み線があったそう、ホームの端のコンクリート部分が材木の下に今でも残っています。姫新線沿線に現存する中では一番古いという駅舎。次々と出てくる思い出話に、駅と地域の絆を深く感じました。(一)

広報津山の製作に携わり、3年が過ぎました。初めの頃は記事を作るだけで必死でした。今では、読む人の気持ちになって作る時間が増えていきます。表紙を見た時の気持ち、どのページに目が止まるか、そのために、どこを印象付けるか…。製作側からは見えない視点を盛り込んだ記事を今後も作ります。(二)